

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

平成29年度第5回 理事会 議事録

【開催日時】平成 29 年 7 月 13 日（木曜日）12:15～14:15

【開催場所】TKP 新宿カンファレンスセンター 5F 会議室

【出席した理事】田口 敏彦、徳橋 泰明、大川 淳、川上 守、山崎 正志、岩崎 幹季、島田 洋一、竹下 克志、種市 洋、永島 英樹、中村 博亮、中村 雅也、根尾 昌志、波呂 浩孝、前田 健、山下 敏彦

【出席した監事】加藤 文彦、松永 俊二

【議事の経過の要領及びその結果】

田口 敏彦理事長は定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。

審議・決議事項

1. 会員審査（5・6月分）

島田理事が、5・6月の入退会希望者の審査結果を示し、決議を求めた。一同検討の結果、承認した。

2. 「新技術研修における認定書」の書式について

大川理事が、新技術研修における認定書の例を提示し、内容を説明し、審議に諮った。一同慎重に議論した結果、製品名を入れた、学会名と企業名で作成した「受講証明」が妥当と結論した。

3. データベース委員会より：ACR/胸椎XLIFデータベースについて（内規）

種市理事が、患者レジストリによる XLIF/ACR 手術及び XLIF/THORACIC 手術患者の前向き全例調査について、ホームページへの公開情報、研究計画書、患者への説明資料について説明した。本調査の「事務局」を獨協医大に変更すること、企業から学会に寄付金がいっているが開示すべき金額ではないことを研究計画書の利益相反の項に

追記すること、10施設で2年間100例の予定であること、複数回のCT撮影があるため「予測される危険と不利益」に関して再考する必要があることなどが確認された。そのため次回の倫理委員会の審議も踏まえ、種市理事が検討結果をまとめることになった。

4. 広報委員会より：HPリニューアルについて

山下理事が、HPに関して4月に開催された広報委員会で検討した結果を提示し、アクセス数が少なく、腰痛や腰部脊柱管狭窄症のキーワードでの検索順位が100位以下となることなどの問題点を説明した。一同、審議の結果、内容を一般向けにすることに重点を置き、委員会内で再検討することになった。

5. その他

・ 第49回学術集会コンベンション会社選考（徳橋 泰明 副理事長）

徳橋副理事長が、学術集会プログラム等検討委員会にて学術集会請負業者2社の見積等を比較し、コングレに決定したと報告した。一同検討の結果、委員会の決定を承認した。

審議・報告事項

1. 新技術評価検証委員会より：委員会報告

岩崎理事が、昨年度行ったLIF合併症調査結果の周知方法について審議に諮った。一同検討の結果、会員専用HP内に掲載することになった。また、今年度も継続調査する予定であると説明した。岩崎理事が、安易な使用を避けるために作成したACR用のCoRoent XL-H/F PEEK ケージシステムおよびCoRoent XL-T PEEK ケージシステムの添付文書を示した。次に、厚生労働省と経済産業省からの次世代医療機器・再生医療等製品に関するアンケートに回答したことを報告した。最後に、頸椎人工椎間板「PRESTIGE LP」 Cervical Disc システムの研究協力施設リストを提示した。新技術評価検証委員会の下にWGを作り、検証していきたいと発言した。

2. 英文誌編集委員会より：SSRR発刊後経過についての報告

根尾理事が、学会のオフィシャル英文誌『SSRR』の現在の投稿数や採択率、バナー広告収入などを報告し、IF獲得のための国際性の必要性について説明した。海外からの投稿がないこともあり、非会員の掲載料無料化について審議に諮った。一同検討の結果、期間限定で承認することとなった。査続を断る評議員の扱いについて協議した結果、評

議員の資格継続審査に査続が必要であることを明記することならびに査読諾否のリストを理事会内部のみに公表し、共有することとなった。

続けて根尾理事が、杏林舎のオンライン投稿査続システムの見積書を提示し、審議に諮った。一同検討の結果、投稿本数が増えてきているため、現行よりも安価な 100 論文上限とすることになった。

3. プロジェクト委員会より：新規のプロジェクト研究について

山下理事が、新規プロジェクト『頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物療法の臨床経済研究』の開始について説明し、次回の理事会にて研究プロトコルを含めて研究の詳細を報告することとなった。

4. 会費カード決済導入の件

大川理事が、当学会の会員数の関係からカード決済のロイヤリティは期待できないこと、個人のカードを利用できる方法で決定したことを報告した。海外からの会員を募集するためにもこの導入が必要であると説明した。会員システムと会費カード決済導入に関しての今後の流れを一同確認した。また、JSSR 事務局のある毎日学術フォーラムがカード決済会社と契約することでカード決済手数料の削減につながったことが報告された。

その他

・第 46 回学術集会報告

島田理事が、第 46 回学術集会について参加者数・演題数・会場別参加者数などを報告した。

・胸椎 XLIF・ACR 手術手技トレーニングで名古屋市立大学先端医療技術イノベーションセンターを使用依頼の件

岩崎理事が、胸椎 XLIF・ACR 手術手技トレーニングのために名古屋市立大学内の先端医療技術イノベーションセンター使用のための依頼書を提示し、一同査収した。

・Spine Across the Sea 2018 について

中村雅也理事が、JSSR と北米脊椎外科学会で合同開催される Spine Across the Sea 2018 のテーマならびにシンポジウムについて説明した。

以上

平成 29 年 7 月 13 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 田口敏彦

監 事 加藤文彦

監 事 松永俊二